

人権課題 障害のある人

相手を思いやる心



1 教科等 小学校4年 特別の教科 道徳

2 主題名 相手を思いやる心 [B-(6) 親切、思いやり]

3 ねらいと教材

(1) ねらい マナブの心情の変化をとらえることで、相手の立場に立って考えることの大切さに気付き、進んで親切にしようとする道徳的心情を育てる。

(2) 教材名 「ええことするのは、ええもんや！」
(出典：日本文教出版「生きる力4」)

4 主題設定の理由

(1) 指導内容について

本主題は「相手のことを思いやり、進んで親切にする」という内容項目を受けたものである。人は、困っている人がいると、自分にできることは何かを考え、それを行為として表そうとする。しかし、親切にすることができるとしても、心のどこかでは「認められたい」「ほめられたい」という思いが働いてしまうことが多い。相手の状況や気持ちを「自分のこととして」想像することによって、親切な行為を行うことができるようにしたい。

(2) 教材について

本教材「ええことするのは、ええもんや！」は、電動車いすが壊れて困っているおじさんを助けるマナブの心の変化が書かれた物語である。最初マナブは、友達や道で出会う人にほめられ、自分は立派だと満足する。その後誰にもほめられなくなったとき、「やめておけばよかった。」と後悔し始める。しかし、友達が自分を助けてくれたことで、困っているときに助けられるとうれしいことに気付く。そして、「おじさんが困っているから助ける」という自分の中の思いやりの心に気付く物語である。心のバロメータを用い、マナブの心の葛藤や変化をとらえやすくすることで、マナブの親切の質が変わったことに気付かせたい。また児童自身の心も可視化できるようにし、自分の心の変化をとらえたり、自分の親切な心について再確認させたりしたい。マナブや自分の心について考えを深めることで、見返りを求める親切ではなく、相手を思いやる親切な心の大切さについて考えることができるようにしたい。

5 他の教育活動との関連等

第3学年 総合 点字・手話体験
第4学年 総合

○自分の周りには、いろいろな立場や状況の人がいることや不便な状態について、正しく知る。

7月「やさしさって何だろう～車いす体験～」(車いす体験、お話)

9月「やさしさって何だろう～視覚障害疑似体験～」(アイマスク体験)

道徳

○相手の困っている状況を考えて、進んで助けようとする。

○親切は自分のためだけではなく、相手のためにするものであると気付く。

10月「ええことするのは、ええもんや！」(本時)

総合

- 「何でも助けてあげる=思いやり」ではなく、「その人の状況を考えて、声をかけ、助ける=思いやり」であるという考えをもつ。
- 障害のある人も、自分たちと同じように生き生きと生活をしていることに気付く。

11月「やさしさって何だろう～住みよい町づくり、人のつながり～」

6 本時（本実践）と人権教育

相手の立場に立って考えることの大切さに気付き、進んで親切にしようとする意欲や態度を育てる。（価値的・態度的側面）

7 学習指導過程

人権教育の視点から特に重要なこと・・・★

学習活動	主な発問（○）と予想される反応（・）	指導・援助の留意点
<p><導入></p> <p>1 アンケートをもとに、「親切、思いやり」について考えていこうとする意識をもつ。</p>	<p>○ほめられたり、ありがとうと言われたりする時はどのくらい親切をしようと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絶対しよう。 ・どちらかといえばしよう。 <p>○誰も気付かなかったり、何も言われなかつたりしたらどうでしょうか。心のバロメータに表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さっきより親切にできない。 ・それでも親切にしたい。 	<p>・児童アンケートをもとに、親切にするよさを想起させる。</p> <p>・心のバロメータを利用し児童が気持ちを表しやすいようにする。</p> <p>・ほめられる時と相手が何もしてくれない時では、親切にしようと思う気持ちに違いがあることを自覚させる。</p>
<p>親切にするときに大切な心は、どんなもの。</p>		
<p><展開></p> <p>2 教材文の前半をもとに、親切にしているマナブのはじめの気持ちについて話し合う。</p> <p>3 教材文の後半を読んで、マナブの気持ちの変化について話し合う。</p>	<p>○おじさんを助けているときのマナブはどんな気持ちでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分は立派。親切を続けよう。 <p>○坂を上るマナブの気持ちはどうでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もうやめたい。疲れた。 ・誰も見てくれない。 <p>◎マナブの気持ちが変わったのはどうしてでしょう。（ワークシート）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達が助けてくれたから。 ・おじさんが喜んでいるから。 <p>○最初のマナブの親切と、最後の親切はどこが違うのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初も親切は親切だけど、ほめられるからしている。 ・最初は自分のためだけど、最後はおじさんのためにしている。 	<p>・板書にマナブの気持ちのバロメータを書き表すことで、共通理解をはかる。</p> <p>・板書の心のバロメータにマナブの気持ちを表すことで、マナブの気持ちが最初と違うことが分かるようにする。</p> <p>・おじさんの親切にされてうれしい気持ちに共感できるように、自分たちの車いす体験を想起させる。</p> <p>・気持ちの変化のきっかけが何かわかるように、誰のサポートや言葉かけがあったのか確認する。</p> <p>★「自分の満足のための親切」から「相手を思いやる親切」に変わったことが分かるように、最初と最後の親切の違いを考えさせる。</p>

<p>4 見返りのない親切について、自分の生活を振り返る。</p>	<p>○最初はほめられなかったら少し親切バロメータが下がる人が多かったですね。最初と自分の考えが変わった人はいますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最初はほめられるほうが良いと思ったけど、最後はほめられなくても喜んでくれるから親切にするのだと思った。 ・いいことをしたら自分もすっきりするからしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分との関わりで考えることができるように、最初に記入したバロメータと比べさせる。 ・意図的指名を行うことで、多面的・多角的な考え方を共有できるようにする。 ・認められたい、ほめられたいという気持ちは誰もが持っている感情で、悪いことではないことを押さえる。
<p><終末> 5 学習の振り返りをする。</p>	<p>○振り返りを書きましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①大切な心 <ul style="list-style-type: none"> ・相手のことを考えて進んで親切にする心が大切だとわかった。 ②自分と友だち <ul style="list-style-type: none"> ・ほめられなくても親切にする人もいるのだなと思った。 ③最初と最後を比べて <ul style="list-style-type: none"> ・相手が喜ぶなら、ほめられなくても親切にしようと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・カードを掲示し、振り返りの言葉が書きやすいようにする。 ・発表させることで、他の友達の考えに触れることができるようにする。 ・授業の初めから「どんな状況でも親切にしよう」という思いをもって児童には、友達の意見を受け入れたり、自分の心情が正しいことを再確認したりできるようにする。

<評価の視点>

○児童が相手の立場に立って考え、親切にすることの大切さに気付いている。

(ワークシート・発言)

○児童が相手のことを考え、進んで親切にしようとしている。

(ワークシート)

(ワークシート)

ええことするのは、ええもんや!

名前 ()

心のバロメータ

1. 自分が親切にするときの心のバロメータを表しましょう (赤)。
.....

2.

3.

4. 今日の授業の振り返りを書きましょう。
.....

偏見や差別の誤りに気付き 誰もが幸せな社会を目指そう



1 教科等 小学校6年 特別の教科 道徳

2 主題名 「差別や偏見の誤りに気付き誰もが幸せな社会を目指そう」
〔C－（13） 公正、公平、社会正義〕

3 ねらいと教材

（1）ねらい ハンセン病について正しく理解し、偏見や差別をなくし、公正、公平な態度で接していこうとする心情や態度を育てる。

（2）教材名 楽しみにしていた温泉旅行

（出典：参加体験型人権学習指導案集『じんけん4』熊本市教育委員会）

4 主題設定の理由

（1）指導内容について

本主題は「誰に対しても差別をすることや偏見をもつことなく、公正、公平な態度で接し、正義の実現に努めること」という内容項目を受けたものである。

指導に当たってはこれまでにハンセン病回復者の話を聞くこと等を通して、ハンセン病の症状や時代背景、ハンセン病患者やその家族がおかれた厳しい状況を学習してきた。そして、本時では資料「楽しみにしていた温泉旅行」をもとに、ハンセン病回復者の思いや願いを考えさせる。さらに、法律（らい予防法）が廃止されても、差別をする人や偏見をもつ人がいるのは、ハンセン病に対して知的理解に乏しく、間違った判断をしているからであり、回復者の思いや願いから、正しい知識をもち正しく行動することの大切さを感じ取らせたい。

（2）教材について

ハンセン病回復者の方々は、家族と引き離されて隔離され、長年にわたって療養所での生活を強いられた。邑久長島では島と本土とを結ぶ橋ができたことや「らい予防法」が廃止されたことにより、社会復帰へ大きな期待をしていた。それにも関わらず、この教材のモデルとなった事件のように、社会復帰を果たしても病気を隠したり、療養所に戻らざるを得なかったりした。それは、人々のハンセン病に対する正しい理解がなく、偏見や差別が根強く残っているからであった。その後「ハンセン病問題の促進に関する法律」が制定され、ハンセン病問題について教育、啓発が行われるようになってきている。この資料の「楽しみにしていた温泉旅行」は、ハンセン病への誤った認識や偏見がどのように差別につながっていくのか気付かせることができる。また、偏見や差別の中で生きてこられた回復者の思いを想像するのに適した資料である。

5 他の教育活動との関連等

社会科「わたしたちのくらしと日本国憲法」基本的人権の尊重(5月)

○日本国憲法には国民としての権利及び義務が定められていること、基本的人権は侵すことのできない永久の権利として、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で保障されていることを理解する。基本的人権が守られていない事例について考える。

道徳科「いじめについて考えよう」(6月)

○いじめについて考え、正しい判断でいじめに対応することができるようにする。

総合的な学習の時間「平和学習～ヒロシマに学ぶ～」(10～11月)

○第二次世界大戦や原爆による被害から、戦争の恐ろしさや悲惨さ、平和の尊さについて考え、戦争は2度と繰り返してはならない人権侵害であると捉えることができるようにする。

「ハンセン病について考えよう」(12～1月)

○ハンセン病について正しく理解し、その歴史や問題について考え、正しい人権感覚・意識を育てる。

以上の学習を通して、現代社会が基本的人権を尊重し、誰に対しても偏見をもつことや差別することのない社会を目指していることについて理解を深め、誰に対しても公正、公平に接する心情を育てる。

6 本時(本実践)と人権教育

ハンセン病回復者の思いや願いを知り、互いを認め合い尊重し合うことは、豊かな共生社会の実現につながる。一人一人が正しい知識をもち、自分も他者も大切にできる態度を育てる。
(価値的・態度的側面)

7 学習指導過程

人権教育の視点から特に重要なこと・・・★

学習活動	主な発問(○)と予想される反応(・)	指導・援助の留意点
<p><導入> 1 ハンセン病について学習したことを振り返る。</p>	<p>○ハンセン病についてどのようなことを学習しましたか。 ・患者は強制的に隔離されていた。 ・差別されていた。 ・感染力が弱く治る病気。 ・死んでも骨を取りに来てもらえない。</p>	<p>・ハンセン病の症状、当時の世間の見方やその患者家族の置かれた状況などの時代背景を押さえながら学習を振り返る。 「人間回復の橋」「らい予防法」「らい予防法廃止」「無らい県運動」</p>
<p>偏見や差別をなくすために大切なことは何かを考えよう。</p>		

<p><展 開> 2 資料を読みハンセン病回復者の思いについて考え、話し合う。</p>	<p>○ホテルからかかってきた電話を聞いて旅行係の人はどう思ったのでしょうか。 ・みんな楽しみにしているのに。 ・なぜ、だめなのか。</p> <p>○なぜホテルの人は宿泊を拒否したのでしょうか。 ・もしかしたら、まだうつるかもしれないと思っているから。 ・他のお客さんが怖がりホテルに来なくなったら困る。</p> <p>○あなたが旅行係だったらホテルの人に何と言いますか。 ・ハンセン病はうつりにくく、薬もあり治る病気です。 ・私たちは療養所に入っていますが、もうハンセン病は治っています。</p> <p>◎差別や偏見をもたないようにするためには、どんな心が大切なのでしょう。 ・物事を正しく理解しようとする心。 ・差別をなくそうとする強い心。 ・正しい判断ができる心。 ・誰にでも公平に接する心。</p>	<p>・資料を読み、療養所の人達が温泉旅行を楽しみにしていた気持ちを押し返す。</p> <p>・「らい予防法」は廃止されたが、なぜこのような事件が起こったのかを考えさせ、同じ人間として許せない憤りを感じ取らせる。回復者への誹謗中傷についても知らせる。</p> <p>★ハンセン病は薬により完治しているので人にうつることはないことを説明するなど、児童の自己表現の場を設ける。</p> <p>・個人で考えた後、グループで意見交流しまとめる。</p> <p>・偏見をもって接すれば差別につながるということに気付かせる。</p> <p>★自他を尊重することの大切さに気付かせる。</p>
<p><終 末> 3 現在の差別問題について考え、自分はどの行動するかを考える。</p>	<p>○今、差別はないのでしょうか。</p> <p>○友達がコロナウイルスに感染して完治して登校します。どのように声をかけますか。</p> <p>○今日の学習を振り返りましょう。</p> <p>①大切な心 ・何事にも正しい知識を持ち、正しい判断をして行動する心が大切。</p> <p>②友達と自分 ・□□さんの考えを聞いて△△と思った。</p> <p>③これからの自分 ・この学習を通してこれから、自分で考えて正しい行動をとっていきたいと思う。</p>	<p>・コロナ差別の例を挙げてハンセン病に対する偏見や差別と似ていることに気付かせる。</p>

<評価の視点>

- 誰に対しても偏見をもつことや差別することなく、公正、公平な態度で接することの大切さについて考え、実践意欲を高めることができたか。(ワークシート)
- 友達の意見を聞いて考えを深めたり、自分の思いや考えを発言したりすることができたか。(ワークシート・発言)